

シニックバイウェイ候補ルートの登録の流れ

(ルート提案の募集)

●応募条件

(1) 提案者の対象

提案資格があるのは、景観その他の地域資源の保全・改善等に資する活動を行う複数の団体で構成される組織（代表者名にて提案）

(2) 提案ルートの種類

①シニックバイウェイルート

シニックバイウェイルートの指定を受けようとするルート（※基本的にシニックバイウェイ候補ルートの登録を行っているルートが対象）

②シニックバイウェイ候補ルート

シニックバイウェイルートの指定を受けることを前提として、今後ルート運営活動計画の策定など積極的な活動を行っていくこうとするルート

候補ルートの提案

【必要書類】

- ①提案書
- ②ルート運営活動
計画の骨子

【提出先】

- ・推進協議会事務局

【提案のあったルート】

- ・層雲峠・オホーツクシニックバイウェイ
- ・天塩川流域ミュージアムパークウェイ

審査委員会による審査

2/24

推進協議会構成機関への意見照会

5/14

NO

推進協議会による候補ルート登録審査

YES

※6/24
推進協議会

候補ルート登録

シニックバイウェイルート提案の応募結果

1. 概要

シニックバイウェイ北海道推進協議会では、これまでにシニックバイウェイルートとして 11 ルートを指定、候補ルートとして 1 ルートを登録しています。

新たに「層雲峡・オホーツクシニックバイウェイ」「天塩川流域ミュージアムパークウェイ」の 2 ルートについて提案がありました。

2. 提案のあったルート

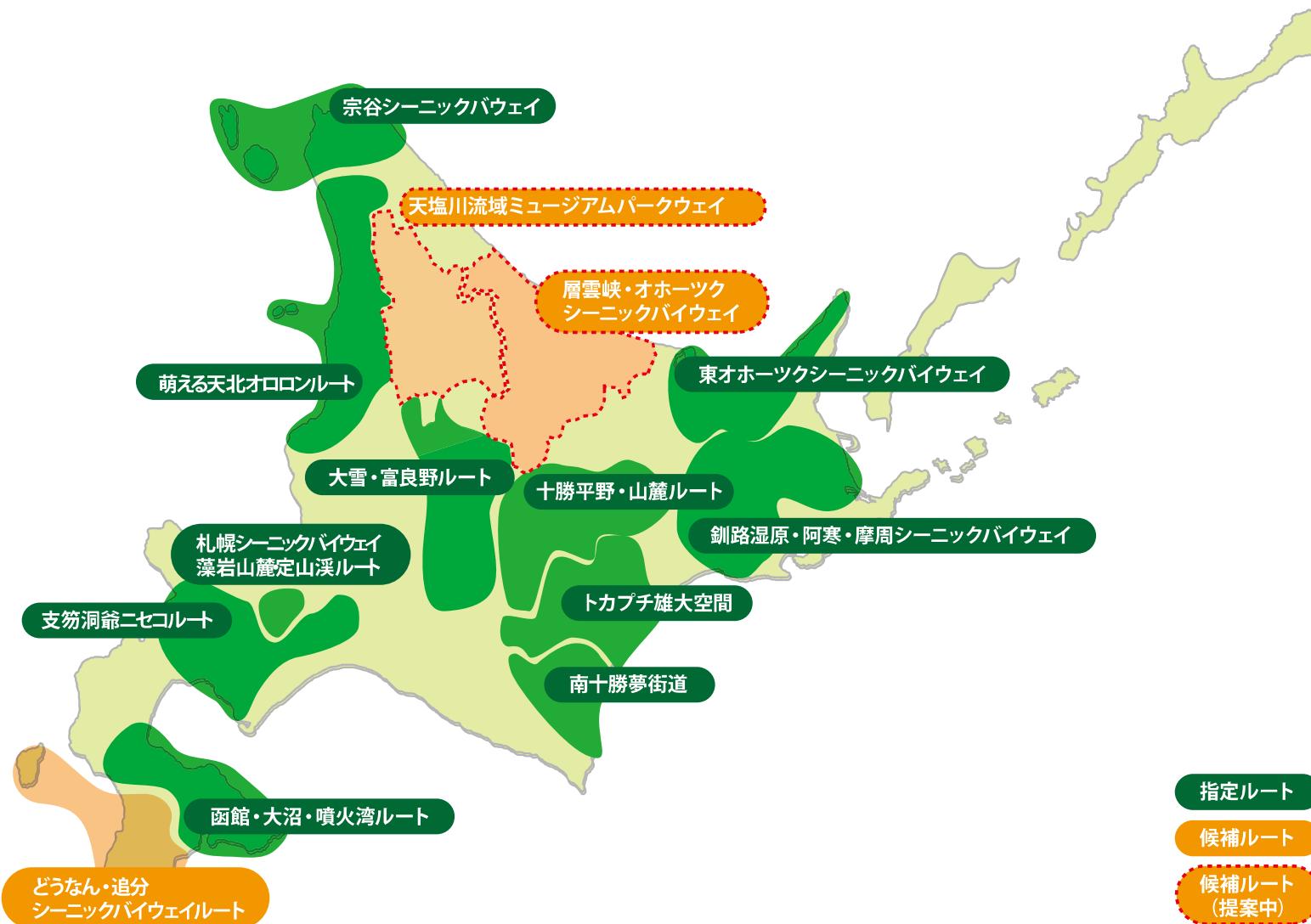
- シニックバイウェイ候補ルート（2 ルート）

ルート名称	代表者名	代表者の所属	構成団体数	関係市町村数
層雲峡・オホーツク シニックバイウェイ	にいぬま とおる 新沼 透	社団法人 紋別観光協会	37	9
天塩川流域 ミュージアムパークウェイ	よしだ はじめ 吉田 肇	なよろ観光まちづくり協会	25	9



シニックバイウェイ北海道の提案ルート

3



1次指定	H 17・5	3ルート	●支笏洞爺ニセコルート ●大雪・富良野ルート ●東オホーツクシニックバイウェイ
2次指定	H 18・4	1ルート	●宗谷シニックバイウェイ
3次指定	H 18・11	2ルート	●釧路湿原・阿寒・摩周シニックバイウェイ ●函館・大沼・噴火湾ルート
4次指定	H 20・5	1ルート	●萌える天北オロロンルート
5次指定	H 21・5	1ルート	●十勝平野・山麓ルート
6次指定	H 22・5	1ルート	●トカプチ雄大空間
7次指定	H 23・7	2ルート	●札幌シニックバイウェイ 藻岩山麓・定山渓ルート ●南十勝夢街道

- ◆第1回候補ルート登録（平成17年5月9日）
 - 函館・大沼・噴火湾ルート
 - 釧路湿原・阿寒・摩周ルート
- ◆第2回候補ルート登録（平成18年4月18日）
 - 南十勝夢街道
 - 十勝平野・山麓ルート
 - 萌える天北オロロンルート
- ◆第3回候補ルート登録（平成20年5月12日）
 - どうなん・追分シニックバイウェイルート
 - トカプチ雄大空間
- ◆第4回候補ルート登録（平成21年5月13日）
 - 札幌南シニックバイウェイ

指定ルート

候補ルート

候補ルート
(提案中)

別 紙

シニックバイウェイルート提案書

平成 25 年 2 月 7 日

シニックバイウェイ北海道推進協議会長 殿

層雲峠・オホーツク シニックバイウェイルート運営代表者会議
幹事会会長 新沼 透



以下のとおり、シニックバイウェイルートの提案を行います。

記

代表者名	新沼 透	
代表者の所属	社団法人 紋別観光協会 副会長	
代表者の住所	紋別市幸町5丁目 24-1	
代表者の連絡先	電話 0158-24-3900	FAX 0158-24-9911
担当者名※	北野 慎治	
担当者の所属※	社団法人 紋別観光協会 常務理事	
担当者の住所※	紋別市幸町5丁目 24-1	
担当者の連絡先※	電話 0158-24-3900	FAX 0158-24-9911
ルート名	層雲峠・オホーツク シニックバイウェイ	
構成団体数	37 団体	
関係市町村名	上川町、雄武町、興部町、西興部村、紋別市、滝上町、湧別町、佐呂間町、遠軽町	
※ルート運営活動計画とは別に、基幹となるルートが明示された参考図(様式1-2)を添付してください。	計(9)市町村	
提案の種類	<input type="checkbox"/> シニックバイウェイルート	<input checked="" type="checkbox"/> シニックバイウェイ候補ルート
必要書類	<input type="checkbox"/> ルート運営活動計画 <input type="checkbox"/> 関係市町村長の意見 <input type="checkbox"/> 候補ルート登録時における付帯意見の対応表	<input checked="" type="checkbox"/> ルート運営活動計画の骨子
備考		

※代表者以外が連絡窓口となる場合には、担当者名の氏名・住所・連絡先もご記入ください。

以 上



■ メインルート

- 【高規格幹線道路】旭川・紋別自動車道
一般国道39号、238号、239号、242号、273号、333号

■ サブルート

- 周辺の道道及び市町村道、農道
(主要道道)
103号留辺蘂浜佐呂間線、137号遠軽雄武線、
61号士別滝の上線、49号美深雄武線、60号下川雄武線

※図中にはメインルート、及びサブルートの主
要道道を表示

※高規格幹線道路：薄黄色ハッチ内の青表示

※国道：薄黄色ハッチ内の赤表示

※主要道道：薄黄色ハッチ内の緑表示

シニックバイウェイルート提案書

平成 25 年 2 月 14 日

シニックバイウェイ北海道推進協議会長 殿

天塩川流域ミュージアムパークウェイ運営代表者会議
代表 吉田 肇 印

以下のとおり、シニックバイウェイルートの提案を行います。

記

代表者名	吉田 肇	
代表者の所属	なよろ観光まちづくり協会	
代表者の住所	北海道名寄市西 3 条南 5 丁目商工会館 1F	
代表者の連絡先	電話 01654-9-6711	FAX 01654-9-6712
担当者名*	綿引 将康	
担当者の所属*	なよろ観光まちづくり協会	
担当者の住所*	北海道名寄市西 3 条南 5 丁目商工会館 1F	
担当者の連絡先*	電話 01654-9-6711	FAX 01654-9-6712
ルート名	天塩川流域ミュージアムパークウェイ	
構成団体数	25 団体	
関係市町村名 ※ルート運営活動計画とは別に、基幹となるルートが明示された参考図（様式 1-2）を添付してください。	和寒町、剣淵町、土別市、幌加内町、名寄市、下川町、美深町、音威子府村 中川町 計 (9) 市町村	
提案の種類	<input type="checkbox"/> シニックバイウェイルート	<input checked="" type="checkbox"/> シニックバイウェイ候補ルート
必要書類	<input type="checkbox"/> ルート運営活動計画 <input type="checkbox"/> 関係市町村長の意見 <input type="checkbox"/> 候補ルート登録時における付帯意見の対応表	<input checked="" type="checkbox"/> ルート運営活動計画の骨子
備考		

※代表者以外が連絡窓口となる場合には、担当者名の氏名・住所・連絡先もご記入ください。

以上

「天塩川流域ミュージアムパークウェイ」

【emainルート】	【emainリバー】
・国道40号	天塩川
・国道239号	
・国道275号	
【サブルート】	【サブリバー】
・周辺道道及び市町村道	天塩川支流



シニックバイウェイ北海道推進協議会

会長 高向 巖 殿

シニックバイウェイ北海道 ルート審査委員会

委員長 小林 英嗣

ルート審査委員会 意見

■シニックバイウェイ候補ルート

◆候補ルート全体に対する意見

ルート活動に参加するあらゆる団体・個人が、シニックバイウェイについての理解を深め、ルートとしての理念・目標・活動指針の明確化とその共有化に向け、引き続き取り組むこと。

あわせて、運営体制の強化、人材発掘・育成、地域資源の発掘・活用などの方策、ルート活動団体を中心としながら地域住民、各種団体、行政、地域産業なども含めた幅広い連携・協働のあり方の検討、それらを活用した取組を推進していくことが重要である。

◆層雲峠・オホーツクシニックバイウェイに対する意見

層雲峠、オホーツク海、サロマ湖などは、北海道を代表する景観資源であり、特に「花」という資源は、他地域からの優位性が増幅される可能性が期待される。

一方、文化や歴史資源は乏しいことから、農業や酪農をはじめとする「産業資源」や本ルートの強みである「食」を磨き上げ情報発信することが必要である。

更に、隣接するルートや地域と深い企業との連携により、独自性を打ち出すことが重要である。

また、「感幸（観光）」という言葉に囚われず、シニックという新しい概念を取り入れることで、プラスアルファを生み出すことが肝要であることから、ルートテーマの再考及び既存団体（観光協会、商工会）以外の活動団体の積極的参加を図る必要がある。

◆天塩川流域ミュージアムパークウェイに対する意見

天塩川を中心とした手つかずの原生自然、エコロジカルな景観、極寒地の雪国景観は、国内でも他に見られない地域資源である。

但し、点在する地域資源の差別化を図りながら、ルート全体をミュージアム化するという具体的な方向性や活動目標・計画を策定することや、活動の相乗効果を生み出すため、既存ルートとの連携を図ることが重要である。

また、天塩川流域の連携強化のための「天塩町」の参入、地域の活動団体や森林組合等の参加促進、計画推進に向けた分科会等の活用など、組織体制の強化・見直しが必要である。

併せて、「博物館」「美術館」との誤解される可能性があるため、ルート名の「ミュージアム」について変更の検討が必要である。

平成 25 年 2 月 24 日

ルート審査委員会

ルート審査委員会の審査結果

(1) シニックバイウェイ候補ルート

①層雲峡・オホーツク シニックバイウェイ

表 1－1 【審査結果】

視点 委員	優れた景観資源の有無および 地域資源の優位性について					景観及び地域資源について	推薦 可否
	景観	自然	文化	歴史	レク		
A	○	○	—	—	○	景観、自然、レクリエーション資源について優位性が認められる。	○
B	○	○	—	—	○	景観、自然、レクリエーション資源について優位性が認められる。	○
C	○	○	—	—	○	①層雲峡とオホーツク海、サロマ湖は北海道を代表する景観資源で、十分優位性が認められる。 ②ルート内に点在する各景観資源もテーマや見せ方でそれらを補完し、ルートの総合的な優位性を向上する資源になり得る。 ③特に季節の移ろいを感じさせてくれる「花」というテーマを景観資源に据えたことは優位性を増幅させる取り組みである。	○
D	○	○	—	○	—	景観資源は豊富であり、連携によるきめ細やかな対応がとれさえすれば、他のルートにはない独自性を打ち出すことができると考える。	○
E	○	—	—	○	—	①大雪連峰への玄関口としての層雲峡とオホーツクはそれぞれ、景観資源として優れたものと思う。 ②オホーツク文化は未だ、解明されていない面も多いようで、大きな「ロマン」がある。	○

表 1－2 【付帯意見】

- ・地域と関わり深い企業等との連携も視野に。
- ・この地域ならではと言ったユニークさ（独自性）が不足。
- ・大雪山をめぐるルートとして、大雪・富良野ルート、十勝平野・山麓ルートとの連携が必要。
- ・資源と資源を辿る道路やルートといった線を中心にした紹介が必要。
- ・季節を反映する資源がテーマとなっているので、季節歴、旬歴が必要。
- ・農業や酪農、ブランド化させた海産物等地域に根ざした産業資源は十分「文化」となり得るので、これを「文化」として磨き発信することが必要。
- ・このルートの一番の強みは「食」で、これをいかに景観等とともに情報発信していくかしっかりと考えてほしい。
- ・ルートテーマについて、「感幸（観光）」という言葉に囚われず、シニックという新たな広い概念を取り込んだネーミングを再検討。
- ・異業種、N P Oなど観光協会・商工会以外の活動団体とも連携し、シニックとしての独自性が必要。
- ・趣を異にする層雲峡とオホーツクを、一つの物にまとめ上げ、如何に訪れる人にわかりやすく伝えるかが課題。

②天塩川流域ミュージアムパークウェイ

表2-1 【審査結果】

視点 委員	優れた景観資源の有無および 地域資源の優位性について					景観及び地域資源について	推薦 可否
	景観	自然	文化	歴史	レク		
A	○	○	—	—	—	景観、自然資源について優位性が認められる。	○
B	○	○	—	—	—	景観、自然資源について優位性が認められる。	○
C	○	○	—	—	—	①手つかずの原生の自然、エコロジカルな景観、地元の産業資源、極寒地の雪国景観は国内では他に見られない優位性が認められる。 ②産業体験やエコツーリズム、日本有数の極寒地の雪国の暮らしなどを文化資源にする試みは今後期待される。 ③全国的に有名な幌加内の蕎麦はミュージアム化も含め文化資源につながる可能性はある。	○
D	—	○	○	—	—	①観光資源としての「景観」は育成しているが、全体を見渡して景観資源の有効活用がまだ行われていないと思える。 ②各地に点在している観光資源をどう結んでいくか、同質な資源を差別化しルートを周遊させる検討が必要。 ③まちづくりはそれぞれ特色があり、独自性をもっているので、これらを回遊することのメリット、魅力をどう打ち出せるかが鍵。	○
E	○	○	—	—	—	本地域は、自然の要素である寒さが一つのキーワードになるのではないか。ダイヤモンドダスト、サンピラーは大変魅力的な要素であると思う。	○

表2-2 【付帯意見】

- ・天塩川流域の天塩町も参加し、今までにはない道路、河川、港湾の3つの分野での活動を期待。
- ・ルート名の「ミュージアム」は、通常の「博物館」「美術館」として誤解をされる可能性があるので、「エコミュージアム」とした方が良い。
- ・下川町が環境モデル都市、環境未来都市の両方に認定されていることを踏まえ、森林組合の参加を検討のこと。
- ・冬期以外の季節の見せ方、楽しみ方のさらなる工夫、新機軸の開発が必要。
- ・道北3ルートの連携による相乗効果を生み出すためにも、宗谷シニックバイウェイ、萌える天北オロロシルートの既存ルートとの連携は不可欠。
- ・広域連携の具体的な成果を期待。
- ・この連携により、他のルートや地域にはない特長、差別化が出せることを期待。
- ・「地域全体をミュージアム化」するという具体的な方向性の不足が見受けられ、現状では熟度が不足気味。
- ・今後、ルートとしてのコンセプトをしっかりと話し合い固めて行き、シニックとして連携した活動の充実及び既存団体や新たな地域の活動団体との連携を期待。

平成25年6月24日
シニックバイウェイ北海道推進協議会

シニックバイウェイ候補ルートの登録について（案）

○シニックバイウェイ北海道推進の基本方針に基づき、シニックバイウェイ北海道実施要綱第18条第一項及び第二項の規定により、次のとおりシニックバイウェイ候補ルートの登録を行う。

ルート名：層雲峠・オホーツクシニックバイウェイ

関係市町村：上川町、雄武町、興部町、西興部村、紋別市、滝上町、湧別町、佐呂間町、遠軽町（9市町村）

提案者：層雲峠・オホーツクシニックバイウェイルート運営代表者会議

ルート名：天塩川流域ミュージアムパークウェイ

関係市町村：和寒町、剣淵町、士別市、幌加内町、名寄市、下川町、美深町、音威子府村、中川町（9市町村）

提案者：天塩川流域ミュージアムパークウェイ運営代表者会議

なお、上記登録を行うにあたって、別紙の通り意見を付記する。

シニックバイウェイ北海道推進協議会 意見（案）

■シニックバイウェイ候補ルート

◆候補ルート全体に対する意見

ルート活動に参加するあらゆる団体・個人が、シニックバイウェイについての理解を深め、ルートとしての理念・目標・活動指針の明確化とその共有化に向け、引き続き取り組むこと。

あわせて、運営体制の強化、人材発掘・育成、地域資源の発掘・活用などの方策、ルート活動団体を中心としながら地域住民、各種団体、行政、地域産業なども含めた幅広い連携・協働のあり方の検討、それらを活用した取組を推進していくことが重要である。

◆層雲峠・オホーツクシニックバイウェイに対する意見

層雲峠、オホーツク海、サロマ湖などは、北海道を代表する景観資源であり、特に「花」という資源は、他地域からの優位性が増幅される可能性が期待される。

一方、文化や歴史資源は乏しいことから、農業や酪農をはじめとする「産業資源」や本ルートの強みである「食」を磨き上げ情報発信することが必要である。

更に、隣接するルートや地域と深い企業との連携により、独自性を打ち出すことが重要である。

また、「感幸（観光）」という言葉に囚われず、シニックという新しい概念を取り入れることで、プラスアルファを生み出すことが肝要であることから、ルートテーマの再考及び既存団体（観光協会、商工会）以外の活動団体の積極的参加を図る必要がある。

◆天塩川流域ミュージアムパークウェイに対する意見

天塩川を中心とした手つかずの原生自然、エコロジカルな景観、極寒地の雪国景観は、国内でも他に見られない地域資源である。

但し、点在する地域資源の差別化を図りながら、ルート全体をミュージアム化するという具体的な方向性や活動目標・計画を策定することや、活動の相乗効果を生み出すため、既存ルートとの連携を図ることが重要である。

また、天塩川流域の連携強化のための「天塩町」の参入、地域の活動団体や森林組合等の参加促進、計画推進に向けた分科会等の活用など、組織体制の強化・見直しが必要である。

併せて、「博物館」「美術館」との誤解される可能性があるため、ルート名の「ミュージアム」について変更の検討が必要である。